



2P 『泉の家』の中心となる中庭。コの字型の建物に囲まれた中庭は家族だけの特別な空間。採光や通風を生み出し、大好きな植栽を楽しむ場となっている。シンボルツリーにはコハウチワカエデを植え、グランドカバーにタマリユウマツトを敷き詰めた。

3P 右上 中庭を広間から眺める。窓の高さに合わせた軒がコの字型に回り、落ち着いた雰囲気を感じさせてくれる。一本立ちのコハウチワカエデは樹形がお気に入り。夏は毎日水やりを欠かさず大切に育てている。

3P 左 キッチンがー続きとなった広間空間。大きな開口部には木漏れ日が差し込み、南と西にハイサイド窓を設けた。時間と共に差し込む光が変化し、1日を通して明るく暖かな広間となった。

コの字型中庭プラン

明るく暖かなNさんのお宅ですが、決して敷地条件に恵まれているわけではありません。私が初めてNさんとお会いした頃は自分たちの希望に合う土地を探されていて、通勤やご両親の家との関係、日当たりや子育て環境など、様々な条件を照らし合わせて検討されていました。環境や日当たりの良い土地は駅から遠く電車を利用するNさんにとっては少し不安があり、通勤に便利な土地は広さや日当たりが心配に。そんな時、静岡市で建築した『AGRIの家』をご覧いただき、土地の形や周辺環境だけでなく、いろいろな手法を取り入れていけば明るく快適な住まいが出来るのではと考えたと伺いました。最終的にNさんの選んだ土地は南北に少し細長い北道路の敷地で、東と南にはすでに住宅が建ち、西側の空き地も近い将来家が建つと思われる敷地でした。道路以外の3方が建物で囲まれ、敷地だけを見ると日当たりやプライバシーは大丈夫かな？ と思わせる土地でしたが、土地購入の前にプランを作成しながらイメージを膨らませ、安心して計画を進めていただくことができました。

通常住まいのプランを考えていく際、道路側に駐車スペースを設け、なるべく南側を空けて考えていきますが、今回のケースは発想を変えて建物を南側に寄せたプラン

木と樹に包まれた暮らし

完成現場報告

鳥田市／『泉の家』

文・写真／ココラボ 山崎健治

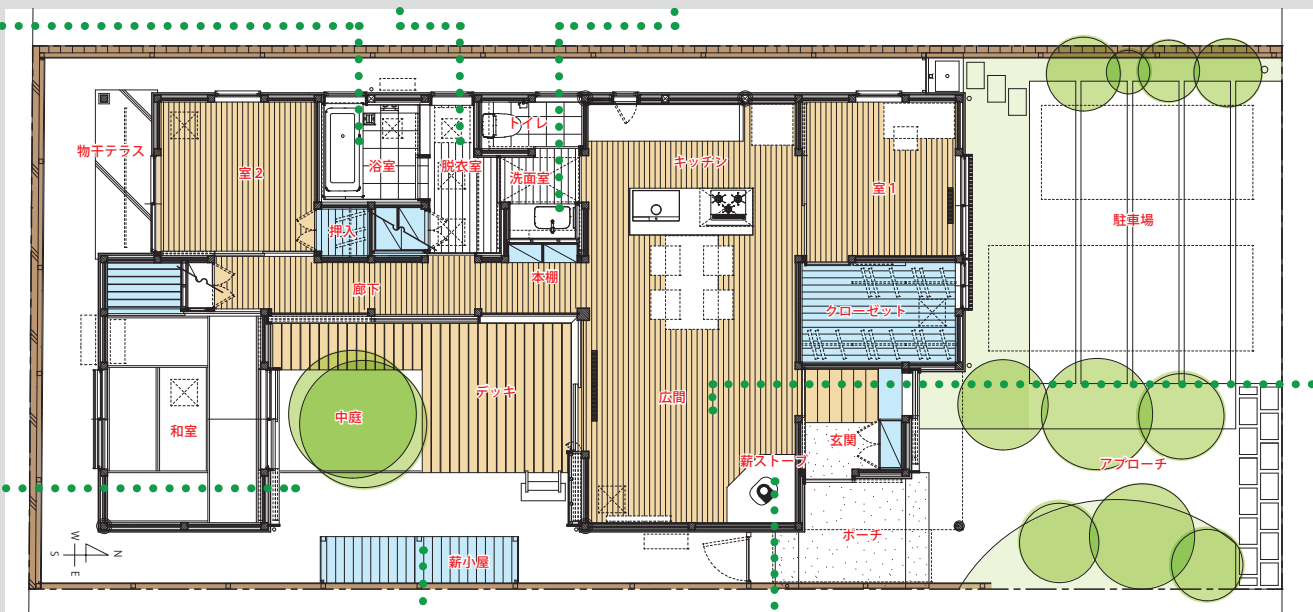
季節の移ろいは早いもので、特に秋は足早に過ぎていくように感じます。まだまだ日中は暑いと薄着で外出すると、日暮れ頃には肌寒く感じ、上着を一枚持ってきて来れば良かったな…と感じる日もしばしば。心地よいと感じさせてくれる期間は短く、11月に入ると草木の色付きや富士山の雪化粧などでも冬の訪れを感じます。日に日に朝晩の気温が下がり慌てて薪ストーブのメンテナンスをしたり薪の準備をしたりと冬支度を行うものの、木の家は保温力があり日中暖かな日は夜になっても室内が冷めず、外の温度変化を感じさせないくらい快適です。先日撮影に伺った『泉の家』のNさんのお宅も、午前中は中庭から燦々と日差しが差し込み、明るく暖かな室内でも快適でした。Nさんに伺うと「まだ夜でも家の中は寒くないですよ。快適です。」と話してくれ、木の家の暖かさをとても気に入ってくれているようでした。



和室格子戸：和室の窓に取り付けた格子戸。寝室として利用している部屋のため、広間や廊下からの視線隠しの目的で採用したが、格子戸がある事で雰囲気のある中庭となった。

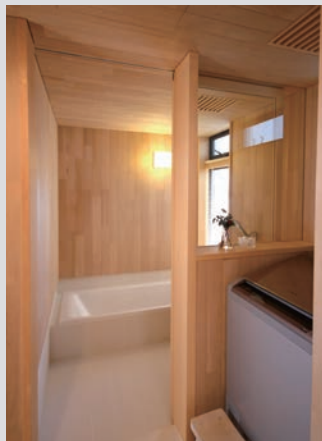
仕様内容

家族構成	家族4人	壁	杉落とし込み板現し、漆喰塗り
敷地面積	197.10㎡	内部仕上	青森ヒバFJ本実板張り
建築面積	90.04㎡	床	栗本実乱張 厚15mm
延べ床面積	79.48㎡	内部建具	オリジナル木製建具
構法	落とし込み板壁工法		葛布ガラス入框戸
屋根	ガルバリウム鋼板 タテハゼ葺き	キッチン	ステンレスヘアーライン/天板オリジナルキッチン
外壁	ガルバリウム鋼板 角波縦貼り マサ土掻き落し仕上	洗面化粧台	アイカ 人工大理石天板オリジナル洗面化粧台
		浴室	オリジナル浴室
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、ヒバ ペアガラス、アルミサッシ(ペアガラス)	設計者	山崎健治
天井仕上	杉板本実張り 厚30mm	施工	有限会社こころ木造建築研究所
	青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm	竣工	平成27年8月



1F平面図

を考えました。単に南側に寄せたプランでは採光が取れないので建物をコの字型とし、家の中心に中庭を設けたプランとしました。写真でもわかるように、広間には十分な採光を得ることが出来、建物で中庭を囲んでいることからプライバシーの高い安心した外部空間をつくる事が出来ました。この中庭スペースですが、東向きとするか西向きとするか？ プラン作成当初少し悩みました。南側のお宅の窓配置を考えると中庭を西向きとする案が良いのですが、西側にどんな家建つかわからない状況だったため不安もありました。最終的には不安を少しでも無くすために現在の東側のお宅の状況を考慮して東側向きとすることにし、中庭に大きな木を植えて視線を遮り、東側に新棚を設けて隣のお宅を感じさせない空間をつくりました。また、中庭を東向きとした事で広間のハイサイド窓から朝日を取り込む事が出来、冬の季節もとても明るく暖かな室内をつくる事が出来ました。約6坪程の中庭は家のほとんどの部屋から見る事が出来、明るさや暖かさと共に、草木の変化で季節の移ろいを感じる空間です。また、約半分の面積に設けたデッキで過ごす時間も特別なひと時で、この場所にいると計画当初心配した敷地形状や隣家などの周辺環境を想像させる事もなく、心の落ち着く豊かな空間をつくる事が出来たととても嬉しく思います。



浴室：浴室はガラス戸で区切られている。引戸を開けると家事をしながらも子供の様子を見る事が出来る。



脱衣室：洗面室と廊下側の2方向から出入りが可能。廊下側を開けると緑が清々しい中庭を望む事が出来る。



洗面化粧台：天板と水栓にこだわったオリジナルの洗面化粧台。天井にはトップライトを設け、その下に格子障子を取り付けた。障子越しの光は柔らかく、程よい明るさのある洗面室になった。

『泉の家』の間取りと内部空間をご紹介します

今回の計画は敷地を余すことなく利用し、中庭を囲むコの字型プランとなりました。ほとんどの部屋から中庭を見ることが出来、採光や通風などの機能面だけでなく、緑を楽しむ家族みんなの癒しの空間となっています。Nさんのこだわりの細部と共に、木と樹に包まれた優しさの感じられる空間をご紹介します。



広間の一角に設置した薪ストーブは壁や天井などの木材を暖め、次第に部屋全体の温度を上げてくれる。壁や天井からの輻射熱はとても心地よく、部屋の何処にいてもポカポカと体の芯まで暖めてくれる。



薪小屋：柱と柵で区切られた一区画で約一ヶ月分の量になる。毎日使うと、これだけあってもワンシーズン分しかない。



薪ストーブ：コンツーラC850。スタイリッシュな縦型で3面ガラスが特徴。広い範囲から炎を見る事が出来るストーブ。



寝室として利用している6帖の和室。壁と天井は杉板と漆喰の仕上げだが、雪見障子やカシュー塗りの襖が和の雰囲気を出している。Nさんこだわりの襖紙は、子供たちの健やかな成長を願った柄になっている。



ダイニングからキッチンを見る。キッチンの上部には障子を嵌め込んだハイサイド窓を設置した。隣の敷地には家が建っているが、白い外壁に光が反射し、キッチンに程よい明るさを与えている。



オリジナル製作したアイランドキッチンとカウンター収納。カウンターやシンク形状をはじめ、ガスコンロや換気扇などの機種選びもこだわりを持ってNさんが選んだ一品。



廊下の一部に設けた本棚。下部の格子扉の中にはDVDなどの機器が納められ、壁掛TVと配線が繋がっている。テレビ周りをスッキリとさせ、子供のいたずら防止にも役立っている。



ダイニングから中庭を眺める。コンパクトな広間空間だが屋根形状に合わせて天井を高く取り、明るさと開放感のある広間になった。イージーチェアやペンダント照明を始め、家の中を飾る小物や花などのすべてがこの家に調和し、暮らしの質を高めている。

コンパクトな空間の中に こだわりの素材とデザイン

Nさんのお宅は中庭を中心とした広々とした印象のお宅ですが、敷地を最大限に利用し、60坪の敷地に24坪の平屋を計画しました。24坪と聞くとコンパクトなお宅を想像すると思いますが、ダイニングとキッチンをワンルームにまとめた広間空間を中心に、寝室として設けた6畳の和室、将来の子供部屋用に4.5帖の部屋が2つ設けてあります。その他3帖のクローゼット、少しゆとりの廊下のある間取りです。初めは不安もあつたけど、住んでみて狭いと感じた事はない。天井も高く各部屋で変化があり、十分な広さだと話してくれました。

間取りや建物形状に特徴のあるNさんのお宅ですが、素材や設備、造り付けの家具などにもこだわりがいっぱいです。家の構造体を板倉構法で造り、内部の壁は杉板の現し部分と漆喰塗りの壁の2種類で仕上げています。板倉構法は壁の構造体である落とし込み板を最大限に利用し、構造体であると同時に防火、断熱、仕上げ材として利用する事が出来ます。木に包まれた空間は閉鎖的な雰囲気が出る事がありますが、木の色や節の有無をコントロールし、また外部に面した開口部を大きくする事で閉鎖感のないスッキリとした空間をつくる事も出来ました。Nさんのお宅では、広間の梁下

部分を漆喰塗りとし、梁上に杉板を現す仕上げとしています。木の存在感を感じつつ漆喰の明るい雰囲気も感じられる仕上がりになりました。コロボではほとんどのお宅で製作させていただいているキッチンや洗面化粧台ですが、今回はNさんのこだわりで少し変わった家具が出来上がりました。キッチンでは天板やシンク形状にこだわり、特注での製作になりました。写真では分かりにくいですが、ステンレス天板の厚みを2cmと薄く仕上げ、スクエア型のシンクには使いやすさを考慮して洗剤置場をつくりました。また、通常ガスコンロは外壁側に配置する事が多いのですが、今回は奥さんの希望でシンクと同じ広間向きとなりました。アイランド型のキッチンでコンロがこの位置となると排気をどうしようかと悩みます。打ち合せを重ね、思い切って屋根部分に採光と排気の機能をあわせ持つ塔屋をつくりました。煙突と合わせて外観からのワンポイントにもなり、室内の換気扇も無理なく納める事ができました。洗面化粧台にもNさんのこだわりが表れ、お気に入りの水栓を取り付けるためにスマートな縁形状のカウンターをあわせました。また浴槽にはホーローを、照明器具、薪ストーブもひとつひとつ吟味して選んでいきました。



玄関前を彩る植栽は、時間をかけてNさんがコツコツと製作している。雑木の他にも苔や石などを上手に使い、趣のある前庭が出来てきた。



アプローチから玄関を眺める。深い軒に守られた玄関は夕暮れ時に窓から漏れた暖かな灯りで迎えてくれる。



中庭につくった小さな庭のタマリユウは、Nさんと私の二人で敷き詰めた。光の届きにくい場所だが一年経った今でもタマリユウはとても元気で青々としている。



玄関アプローチに沿って数本の雑木で小さな前庭をつくった。色々な木々は季節毎に雰囲気が変わり、家族だけでなく来客も楽しませてくれている。



北道路からの外観。窓の縦格子と、屋根に突き出した煙突と塔屋がアクセントになった。煙突は通常の断熱煙突を壁で囲み、オリジナルで製作した角トップを設置した。シンプルだが個性的な外観となり、機能とデザインが重なったファサードとなった。

木の家暮らしを さらに楽しく

Nさんは家の完成にあわせてもうひとつ大きな楽しみがありました。それは外構と植栽計画。特に中庭に植える植栽は工事のタイミングがあり建築途中に植えたいので早めに植木屋さんに見にきました。色々和見の中で樹種はコハウチワカエデに決定。ですが大きさや枝ぶりなどがあり植木屋さんで決めるのは難しい…みんなでイメージを膨らませ、少し存在感のある一本立ちのカエデに決めました。カエデが現場に運ばれNさん立ち会いの中いよいよ中庭に設置。正面を決めたり少し傾けたり。私もわがままを言わせてもらいとても満足のいく配置が出来ました。家の完成後には玄関前にも植栽を行い、山取りの雑木を中心とした趣のある植栽が出来上がりました。中庭は室内から、玄関前庭は来客や通りかかる人の目を楽しませてくれ、木の家とあわせて豊かな気持ちにさせてくれる風景が出来たと思います。

今回Nさんの家づくりに携わる事が出来て、家づくりの楽しさを改めて感じさせていただけ事が出来ました。土地の特徴や周辺環境からプランを提案させていただき、悩みながらもみんなでプランを育てるように新しい発見や課題を見つけ、毎回新鮮な気持ちで打合せを重ねていったように思います。

す。採光や通風を始め家事動線や収納計画を考え、現実的な使い勝手を検討する中でもプロポーシヨンや素材を吟味。Nさんご夫婦は単に性能や機能を重視した考えだけでなく、モノの綺麗さや本当の意味での心地良さを考えた上での選択が多く、私達建築屋の理想やこだわりにも様々な場面で応えてくれました。家が完成し何度か伺いさせていただいています。行く度にこの家の気持ち良さを感じ、またNさんご家族の愛情も伝わってきます。時間を掛けてじっくりとつくり上げてきた木の家ですが、年月が経つにつれさらに雰囲気が増し、これから益々楽しい暮らしが待っているのだと感じます。まだまだ木の家での暮らしは始まったばかりですが、今後もNさんご家族とこの家の成長を楽しみにしています。

